

草津市幼稚園・認可保育所(園)のあゆみ

資料3

年	幼稚園			認可保育所(園)			草津市のあゆみ	年
	私立幼稚園	公立幼稚園	主な経過等	私立認可保育所(園)	公立認可保育所	主な経過等		
大正11年(1922年)	①信愛幼稚園開園 ②草津幼稚園開園		私立2園の開園により、本市の幼稚園教育が開始				現住人口2万3千人	大正11年(1922年)
昭和22年(1947年)			(教育基本法・学校教育法公布)			(児童福祉法公布)		昭和22年(1947年)
昭和23年(1948年)						(児童福祉施設最低基準施行)		昭和23年(1948年)
昭和24年(1949年)								昭和24年(1949年)
昭和25年(1950年)								昭和25年(1950年)
昭和27年(1952年)			戦後の児童数増と幼稚園教育の普及を背景に、幼稚園教育要領が作成され、また設置基準の制定により、全国的な施設設置が促進される。			(保育指針刊行)		
昭和29年(1954年)	③若竹幼稚園開園						草津市誕生 人口3万2千人	昭和29年(1954年)
昭和30年(1955年)		①笠縫幼稚園開園 ②常盤幼稚園開園				季節保育所(託児所)を含め、私設保育所による保育(昭和33年 7箇所) ※季節保育所(託児所)／農繁期だけの開設		昭和30年(1955年)
昭和31年(1956年)		③志津幼稚園開園	(幼稚園教育要領刊行・幼稚園設置基準制定)				国鉄米原～京都間の電化	昭和31年(1956年)
昭和33年(1958年)			公立幼稚園は昭和30年以降、1小学校に1園を目安として、昭和54年までに10園を設置					昭和33年(1958年)
昭和34年(1959年)		④山田幼稚園開園						昭和34年(1959年)
昭和35年(1960年)								昭和35年(1960年)
昭和39年(1964年)	④草津カトリック幼稚園開園		私立幼稚園は昭和29年、昭和39年に1園ずつ開園し、草津駅周辺を中心に、4園が所在し、現在に至る。			(保育所保育指針刊行)		昭和39年(1964年)
昭和40年(1965年)						主婦を中心とした認可保育所設置要望・運動		昭和40年(1965年)
昭和42年(1967年)		⑤中央幼稚園開園		①草津保育園開園				昭和42年(1967年)
昭和44年(1969年)		⑥老上幼稚園開園						昭和44年(1969年)
昭和45年(1970年)			(中教審答申「46答申」)	1970年代の保育所集中的な整備	①草津保育所開所		国鉄草津～京都間の複々線化	昭和45年(1970年)
昭和46年(1971年)			答申内容 ・入園希望全ての5歳児の就園が目標 ・市町村に必要な数の幼稚園の設置義務				人口5万人突破	昭和46年(1971年)
昭和48年(1973年)						私立保育所への運営補助開始(私立保育内容の充実のため)	草津第二小開校(草津小から分離)	昭和48年(1973年)
昭和49年(1974年)					②草津第二保育所開所	急激な人口流入、第2次ベビーブーム等により、保育需要が急増	市政20周年	昭和49年(1974年)
昭和50年(1975年)					③第三保育所開所	延長保育、低年齢児保育、障害児保育の推進	昭和50年(1975年)	
昭和51年(1976年)					④第四保育所開所		玉川小開校(老上小から分離)	昭和51年(1976年)
昭和52年(1977年)		⑦玉川幼稚園開園 ⑧大路幼稚園開園		②あさひ保育園開園 ③みのり保育園開園 ④志津保育園開園	⑤第五保育所開所		昭和52年(1977年)	
昭和53年(1978年)				⑤すぎのこ保育園開園 ⑥あゆみ保育園開園			矢倉小開校(草津小から分離) 笠縫東小開校(笠縫小から分離)	昭和53年(1978年)
昭和54年(1979年)		⑨矢倉幼稚園開園 ⑩笠縫東幼稚園開園	昭和55年以降、人口急増の沈静化と幼児の減少傾向により、公立幼稚園児の減少が顕在化 ⇒公立幼稚園の2年制移行の保護者ニーズや統廃合の必要性が高まる。	⑦草津大谷保育園開園 ⑧くるみ保育園開園	⑥第六保育所開所	公立保育所建設に引き続き、私立認可保育所整備(認可外保育所からの移行整備を含む。)	老上中開校	昭和54年(1979年)
昭和55年(1980年)							新堂中開校	昭和55年(1980年)
昭和56年(1981年)							国体開催、総合体育館開館	昭和56年(1981年)
昭和58年(1983年)							市立図書館開館	昭和58年(1983年)
昭和59年(1984年)							市政30周年、高穂中開校	昭和59年(1984年)
昭和61年(1986年)			答申内容 ・公立幼稚園の2年制の早期実現 ・私立幼稚園、公私立保育所(園)との共存 ・公立幼稚園の園児定数、統廃合に関する条件の設定	⑨若草くるみ保育園開園			志津南小開校(志津小から分離)	昭和61年(1986年)
昭和63年(1988年)		市幼稚園整備審議委員会答申						昭和63年(1988年)
平成元年(1989年)							南笠東小開校(玉川小から分離) 玉川中開校	平成元年(1989年)
平成2年(1990年)			(草津保育所・中央幼稚園合築)			(草津保育所・中央幼稚園合築)		平成2年(1990年)
平成3年(1991年)		公立幼稚園2年制移行 大路・矢倉幼稚園廃園 笠縫東幼稚園分園化	公立幼稚園 ・2年制移行(4・5歳児) ・7園1分園へ統廃合(笠縫・常盤・志津・山田・中央・老上・玉川、笠縫東分園)  保育料補助金事業開始(私立通園者) (公私立幼稚園の保育料格差是正)					平成3年(1991年)

年	幼稚園			認可保育所（園）			草津市のあゆみ	年
	私立幼稚園	公立幼稚園	主な経過等	私立認可保育所（園）	公立認可保育所	主な経過等		
平成4年（1992年）							市役所新庁舎竣工	平成4年（1992年）
平成6年（1994年）			草津駅周辺の住宅（マンション）開発等による草津第二小学校の幼児数増加 ⇒笠縫東分園の定数超過				J R南草津駅開業 立命館大学くさつキャンパス開校 市政40周年	平成6年（1994年）
平成7年（1995年）							人口10万人突破	平成7年（1995年）
平成9年（1997年）		市幼稚園整備審議委員会答申	答申内容 笠縫東分園の本園化（園児定数増）、他定数規定見直し（弾力運用）					平成9年（1997年）
平成10年（1998年）		笠縫東幼稚園本園化						平成10年（1998年）
平成11年（1999年）			幼児数（待機者）の増加による公立幼稚園の定数見直しの必要性が高まる。				人口11万人突破	平成11年（1999年）
平成12年（2000年）				⑩Pure Kidsみのり保育園開園				平成12年（2000年）
平成13年（2001年）		市幼稚園整備審議委員会答申	答申内容 大路・矢倉幼稚園の再開園、他定数規定見直し（学級定数）					平成13年（2001年）
平成15年（2003年）		大路幼稚園再開園 矢倉幼稚園再開園	大路・矢倉幼稚園の再開園					平成15年（2003年）
平成16年（2004年）				⑪のみち保育園開園			渋川小開校（草津第二小から分離） 市政50周年	平成16年（2004年）
平成17年（2005年）				（あさひ保育園改築）				平成17年（2005年）
平成18年（2006年）				（草津保育園改築）				平成18年（2006年）
平成19年（2007年）								平成19年（2007年）
平成20年（2008年）				⑫さくら坂保育園開園（あゆみ保育園改築）			新名神高速道路開通	平成20年（2008年）
平成21年（2009年）				（すぎのこ保育園改築） （くるみ保育園改築）			人口12万人突破	平成21年（2009年）
平成22年（2010年）				（みのり保育園改築）			家庭的保育事業の開始	平成22年（2010年）
平成23年（2011年）								平成23年（2011年）
平成24年（2012年）				⑬くさつ優愛保育園モンチ開園				平成24年（2012年）
現在までの概況	<p>（私立）私立幼稚園は大正11年に2園開園し、その後昭和29年、39年に各1園ずつ開園し、草津駅周辺を中心とし、4園が所在し、現在に至る。4・5歳児に加え、3歳児の受入れを行っており、現在では定員超過から転じ、全体的に定員を下回る状況である。</p> <p>（公立）公立幼稚園は昭和30年以降、1小学校に1園を目安として、昭和54年までに10園を設置している。平成3年に1年制（5歳児）から2年制（4・5歳児）へ移行しているが、2年制への移行後、施設定数を上回る申込みの状況となり、恒常的に抽選を行っていた。そのため、施設増築に加えて、総定数の枠内において、弾力的な運用を行い、各施設に適切な定数配分することにより、待機を解消し、平成17年度以降は、平成22年度の老上幼稚園を除き、総じて定員を下回っている。</p> <p>（抽選が行われた年度については、把握が可能な平成13年度以降において、平成13年度～16年度、22年度）</p> <p>※私立・公立ともに、一定の預かり保育・未就園児活動の実施をしている。</p>			<p>昭和40年代から昭和50年代の出生数の増加に対応する形で、公私立共に、認可保育所の整備が進む。その後、就労状況・保護者ニーズ等の変遷に対応し、延長保育・障害者保育の開始、拡充、また休日保育・一時預かり等の多様な保育事業展開が図られており、量的・質的に拡大傾向が続いている。</p> <p>現在、保育需要の増加と待機児童の発生に対応する形で、私立認可保育所（園）の整備により、保育定員の増を図っている。（平成24年4月現在、私立13園、公立6園）</p>				

一時預かり・休日保育の推進

待機児童数  
(年度当初)

0  
5  
31  
47  
47  
45  
44  
45  
60  
65

南草津駅周辺等の人口流入、共働き世帯増加による保育需要の増大  
(待機児童の発生)

私立認可保育園の整備(創設・増改築)による定員増  
(平成16年度～平成24年で約500人の定員増)

特定保育開始